

「鳥羽伏見の戦いで敗走、埋めた…」

伝承の武具見つからず

南区・日向地蔵 石塔移設で調査

「地域の文化大切に」



大乗妙典塔の下に埋まっていた小石を掘り出す地域住民たち(京都市南区吉祥院)

京都市南区吉祥院西ノ茶屋町で改修中の「日向地蔵」の地蔵堂で、近くにある石塔が13日に移設され、地中調査が行われた。町内では石塔の下には経の文字を書いた小石のほかは武具が埋まっていると伝わっていて、地元住民が興味深げに作業を見守った。

同地域の地蔵堂近くにある石塔は「一字一石大乗妙典塔」と呼ばれている。記録によると、石塔は1858年の建立で、7万字近くある経を一つ一つ書いた小石が納められた。石塔と小石は明治時代に廃仏毀釈で行方不明になったが、1929年に現在地に戻されていた。地元西ノ茶屋町内

改修作業を進めている。市文化財保護課の職員と住民たちがシャベルやつるはして地中を掘り進めると直径45センチ、高さ17センチの石の容器が出てきた。中には、「佛」や「若」などの字が墨で記された小石215個と寛永通宝1枚が出てきた。近所の自営業稲垣克己さん(62)によると、子どもの頃に地域の古者から「鳥羽伏見の戦いに向かう兵が一服する場所で、敗走する際に置いていった刀ややりを埋めたとも聞いたことがある」という。

だが、刀ややりは見つからず、地蔵整備事業実行委員長の小柴美仁さん(59)は「武具はまだどこかに埋まっているかもしれない。地蔵や石塔は地域の文化として長く大切にしていきたい」と語った。小石は14、15日の午前10時から正午まで現地一般公開する。(加藤華江)

「桜散歩」遅咲き130種 楽しんで



多様

京都府立植物園(京都市左京区)で遅咲きの品種の桜が案内する「桜散歩」が始まった。桜の黄色がかつや黄色がかつやと、さまざまにする桜を来園者が楽しんだ。園内には野生ザクラと、栽



父親と子どもの日常をテーマにした写真展「スウェーデンのパパたち」(京都市下京区、ひと・まち交流館京都)

「スウェーデンの国交樹立から150年になるのを記念し、関西を拠点に活動する市民団体「北欧福祉モデル研究会」が企画した。寝入った子を優しい目で見守る深い寝の姿や、赤ん坊を乗せたベビーカーのそばで運動に励む父親を写したトレーニングジムでの一コマ、ぐずる子に食事させようと奮闘する場面など、父子の普段の暮らしが伝わ

英語や児童

ルーマニアの

ルーマニアから来日している中高生16人が13日、京都市東山区の日吉ヶ丘高と東山泉小を訪れ、英語や茶道を通して日本の児童や生徒と交流した。一行は日本の生活や文化に息づく「5S運動」(整理、整頓、清

潔、清掃、しつけ)をした。学ぶため10日から京都に滞在している。この日は日吉ヶ丘高で互いの国の文化などを英語で紹介しあった後、東山泉小中で茶道を体験



ルーマニアの中地帯からは講師の中学生からお茶の歴史の説明を受は英語を学ぶ児童たちたて方を教わった。5年の中谷将吾は「こつを教えるすぐに上手にたてた」と感心し、シア・ネキッタタさん(13)は